

## 第67回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年2月27日（火） 10:00-11:25

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、後藤委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

和泉内閣総理大臣補佐官

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、佐藤参事官、須藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官

文部科学省研究開発局長 佐伯 浩治

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長 谷 広太

4. 議事要旨

(1) ISEF 2 及び今後の宇宙探査について

宇宙開発戦略推進事務局、関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局及び関係府省からの回答)

- 宇宙探査については、我が国にメリットがあり、地に足の着いたものである必要がある。この観点から、この度、米国が打ち出した、「まずは月」という方向性は、歓迎したい。
- 各国・産業界を巻き込むにあたっては、「火星」はハードルが高く、まずは、「月」をターゲットに進めていくことが重要である。今後、産業協力・国際協力の中で、どう宇宙探査を進めていくのか、ISEF 2 での議論が大事になる。
- ISEF 2 の今後のスケジュール感はどうなっているか。
- ISEF 2 後の具体的なスケジュールははっきりしていない。今後、主要国の宇宙機関や ISS 加盟国間のグループなどで、水面下の具体的な議論が進んで行くのだと思う。
- 米国の宇宙探査の方針は、今後変わり得るので、米国の方針をフォローしていくことも重要だが、まずは、将来、日本自身がどの様に探査を進めていくのか基本方針を持つておくことが重要。
- 米国は、宇宙利用全般に関して、政府が民間企業からサービスを買うという方針で進めている。日本も、予算が限られた中、産業界とどう連携するかという点も考えるべきだと思う。
- 宇宙探査には巨額の予算が必要になる。ISS の議論と一体で考えていくことが必要。

(2) 宇宙ベンチャー等の総合的な施策の充実について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 日本のベンチャーは技術的な課題に直面している。米国では、NASAや大企業の技術者が、ベンチャー企業に流れるような仕組みがある。日本のベンチャー企業の技術力強化には、日本でも人材の流動性をいかに確保していくかが重要なポイント。
- 人材の流動性について、現実的に、すぐにできることとしたら、定年を迎えた技術者の方々をどう活用していくか、ということだと思う。
- 一方、定年間際の方々が、会社を辞めてからすぐにベンチャーに行くことは難しいかもしれない。現役時代から、兼業できるような仕組みがあると良いのではないか。

(3) 宇宙基本計画の工程表改訂に向けてについて

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 宇宙基本計画を着実に進めていくためには、各省において、まずは、夏の概算要求のタイミングで、必要な予算をしっかりと確保していくことが必要。特に、宇宙科学については、大事な基盤であると認識してほしい。

以上